

2025年大阪・関西万博での展示協力の報告

技術移転部/水利制御グループ 中矢哲郎

大阪・関西万博に出展した三重大学に展示の協力を行ったため、その状況を視察してきました。万博は革新的な技術を披露する機会、SDGsの達成、Society 5.0の実現、未来社会の実験場など、農研機構の目指す柱と趣旨が共通する国際的かつ大規模なイベントであり、参加や展示を通じて、万博の中での位置付け、来場者の反応について知ることができる、またとない機会になりました。



提供した展示物と三重大学のブース

展示が行われたのは、文科省主催イベント「わたしと未来、つながるサイエンス展」の4つのつながるを体験できるブースのうち「周囲とつながる」をテーマとした三重大学のブースです。ここでは、食と環境を守るイノベーション技術が紹介され、三重大学が中心となる「三重スマートビレッジプロジェクト」の取り組みを体験できます。その一部として「農業用水を畑・水田に配水する水管理システム」を紹介する上で、農研機構のICT水管理の説明用の模型が活用されました。この模型はスマホでスマート水管理を体験できるようになっており、送配水、湛水、湧水等水管理の状況をLEDの色、動きの変化で可視化できるのが特徴で、実際の水を使わないことで省スペースかつ分かりやすく説明することができます。ブースには多くの来場者があり、農業関係者のみでなく、小中学生も含む多くの方が説明を熱心に聞いていました。最も多かったのは「農業のスマート化がここまで進んでいるとは思わなかった」という驚きの反応です。普段スマート農業関係の展示イベントでは得られない反応で、今後は一般の方への説明や認知度向上の必要があると感じました。また、農研機構について知らない方が多く、どこにあるのか、何をやっている機関なのか、の質問を頻繁に受けていました。農業研究機関として一般にはまだ認知度が低いことを実感

するとともに、今回のような一般の方が多数来場し、高い注目度のイベントでの展示の重要性を実感しました。イベント全体としては約 6 万人の来場があり三重大学ブースへの来場は約 3 千人にのぼり、インスタグラムのフォロワーも約 1,400 人も増加し、大成功とのことでした。



大屋根リングの上からの会場の様子

会場全体は、前日の地下鉄の故障の影響もみられないほどの活況でした。会場全体を囲む世界最大の木造建築物になった大屋根リングには感銘を受けました。賛否はありましたが、日本の木造建築に使用されてきた伝統的な技術と現在の工法を融合していること、単なるオブジェではなく、日差しを遮る快適な空間を形成し、屋上は歩行できるため交通空間にするなど（今回おおいに利用しました）、新しい利用方法を提示した万博ならではの実験的取り組みと感じました。現在、万博終了後の扱いが検討されておりますが、個人的には、万博の記憶を刻んだ木材として、地方のレストランや道の駅などのテーブル、柱などに有効に利用できればいいと思いました。単に廃棄物にせずカスケードに利用することで、持続的な社会の実験場という万博の趣旨を実現することを密かに期待しております。